

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日, 評価結果市町村受理日. Contains details for O175700426, 有限会社介護ケア道央, グループホーム めくもり 1階, 〒068-0115 岩見沢市栗沢町最上293番地1, 令和2年9月17日, 令和2年11月5日.

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_khon=true&JigvosyoCd=0175700426-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日. Contains details for 特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット, 札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401, 令和2年10月14日.

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『ありのままに ゆとりとめくもりのある暮らし』の理念をもとに、家庭的な雰囲気の中で、ご本人のペースに合わせ、達成感や生活感を感じていただけるように支援をおこなっています。一人ひとりが地域の一員だと感じていただけるように色々な地域行事への参加・外出や外食する機会を多く取り入れ、また、広い敷地を活用し外作業や外気浴などをおこなっていただきながら、参加活動の充実を図り、体力維持・気分転換のために色々な活動をおこなっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、栗沢町内の高台にあり、すぐそばを幹線が走りバス停も近く、JR駅からも徒歩圏内で緑豊かな環境に位置しながら、近隣には公共施設や商店がありコンビニも至近距離で、生活に適した環境下に立地している。敷地は広く、駐車場を挟んで同系列の事業所があり、相互協力関係で利用者の安全安心に努めている。建物は明るく清潔感があり開放的で、1階と2階にそれぞれユニットが入り、計18人の高齢者が生活を共にしている。オーナーは地域の高齢者が地元で安心して暮らせる為に地域貢献の一環として別棟の事業所をまず開設し、必要に迫られて2年後の2005年、同一敷地内に「グループホームめくもり」を開いた経緯がある。当事業所の優秀な点は、広い敷地の活用を挙げたい。事業所の奥は広い農園があり、地域の人の協力で、毎年幾つもの農産物を作っており、採れたての野菜類が食卓に上がるのが利用者の楽しみとなっている。介護の実践も明記したい。介護の基本となる介護計画は日々チェック表に落とされ、また職員のコメントも付記されて、介護計画達成への進捗度を把握する事ができ、利用者一人ひとり個別の介護の実践に大きな効果を発揮している。職員の手の少なさの中、頻繁な外出や多彩な目的施設も高く評価したい。利用者の楽しむ姿を常に考えながら介護に取り組む「グループホームめくもり」に今後も大いに期待したい。

Table V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します. Columns: 項目, 取り組みの成果, 項目, 取り組みの成果. Rows 56-62 with various criteria and evaluation points.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念・運営理念を指針とし、日々のケアの中で意識をして取り組んでいます。理念をもとに、各フロアでサブ目標を設定し、それに向けての自己評価を毎年おこなっています。	「ありのままに ゆとりとぬくもりのある暮らし」を基本理念とし、ユニットごとにテーマを設け、職員は自らの自己評価で毎年確認しながら、理念の実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会に加入し、色々な行事に参加しています。職員と一緒に買い物へ行き挨拶を交わすことで、馴染みの関係を築いています。	町内会や地域のサークル等と関りを維持し、各種行事に参加し、事業所の行事にも招待しながら、馴染みの集まりとして相互に交流し、親しみのある関係を続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ほとんどの職員が認知症サポーターを受講し、訪問者やご家族より認知症への相談を受けた時には対応できる体制を整えています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を年に6回開催し、ご家族には議案書を郵送しています。各フロアのご家族代表には毎回参加をお願いし、行事に合わせて、全てのご家族へ参加の声掛けをおこなっています。	推進会議は2ヶ月ごとに家族や行政と包括等の委員の参加で定期開催している。内容も行事報告から事故やヒヤリハットに及んでおり、議事録は関係者から家族宅まで配布され、サービスの向上に繋がっている。また会議には利用者も加わるなど、多彩な参加者となっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	制度やケアなどでの適切な情報や、感染症などへの注意喚起を受けています。毎回運営推進会議へ参加していただき、良好な関係を築く事ができています。	制度の改正や疑問点に関して、電話や訪問でお聞きし、情報交換も行いながら信頼できる関係を築いている。事故報告の際も的確なアドバイスを受け、確かな連携が維持されている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3カ月に1回、系列事業所と合同で身体拘束廃止委員会を開催し、ミーティング時に内容を報告し周知しています。年に2回身体拘束や虐待の研修をおこない、身体拘束のない解放的な施設を目指しています。	拘束廃止委員会を3ヶ月毎に同系の事業所と合同で開催し、お互いの利用者の実体を報告し、不明な点等を検討している。また議事報告はその都度職員に示し、拘束も抑制もない介護に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部でおこなわれる虐待研修などには、積極的に参加しています。先日、不適切な声掛けがあったことを受け、職員へ無記名でのアンケートをおこない緊急ミーティングを開催しました。今後も、しっかりと対応していきたいと思えます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を学ぶ機会を持ち、理解を図っています。現在、成年後見人制度を利用している方が1名・自立支援制度を利用している方が1名います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分な時間をとり、説明し納得いただけているか質問・疑問点を確認しながら進めています。契約後の改正などについては文章を作成し説明・同意を得ています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やご家族との関りの中で意見や要望の把握に努めています。無記名でご家族へのアンケートなどもおこないながら、意見表現を活性化いただき、サービスの向上に繋げています。	毎月「めぐり便り」を発行し行事報告や利用者の様子をお知らせし、他には2ヶ月ごとに利用者個人のお手紙を家庭に送付しており、きめ細かな情報を伝えている。またアンケート調査も実施し、苦情や要望に応える体制で臨んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングや、職員の日常の気付きをその都度聞き入れるようにしています。施設長との個人面談の機会を設け、労働環境や処遇改善に努めています。	職員からの提案や意見は毎月の会議や朝夕の申し送りで聞き取っているが、施設長面談も用意されており、個人の仕事目標から勤務の状況まで何でも話し合えるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働基準法に則り労働条件を整え、日々職員同士の声掛けや仕事内容などを検討しながら、サービス残業ゼロを目指しています。資格取得なども向上心を持って取り組めるように支援をしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修なども参加出来るように配慮し、研修内容を報告する場を設ける事で、全職員が学べる環境を整えています。毎月介護情報誌を購入し、職員で閲覧できるようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム協会に加入し、研修会や懇親会に参加しています。管内のグループホームと情報交換などもおこない、空き状況や災害の協定・合同研修会などもおこなっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めています	一人ひとりが安心してサービスを利用できるように、相談の時点から利用にいたるまで、その人の視点に立って柔軟に対応出来るように努めています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	担当ケアマネより情報提供を受け、相談時や初回面接時に、ご本人・ご家族より要望や不安を聴き入れ、入所時のリロケーションダメージを最小限に抑える事が出来るように対応しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始前には、事業所の見学を勧めています。雰囲気や過ごし方などを見て感じていただき、必要なサービスを出来る限り取り入れ対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の苦しみ・不安・喜びなどを暮らしの中で分かち合いながら、共に支え合える関係が築けるように努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様がいつでも来所しやすい環境を整えるように努めています。来所時や電話などで日々の様子や気づきを伝え、共に支え合える協力関係を目指しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の来訪などはいつでも歓迎しています。施設での外出の際に、地域や懐かしい場所を巡るなど、生活歴や利用者の要望に応え馴染みの関係継続への支援をおこなっています。	事業所の近くには、住み慣れた町や周囲の田園風景、その向こうに樽前山や恵庭岳、手稲の山々や、暑寒連峰等の遠い山々までを一望できる丘もあり、また「自宅めぐり」として自宅付近を訪れて懐かしい話を聞くなど、馴染みの関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席の配置は特に決めず、ご本人の意思により自由に座っていただいています。職員が一緒に席につき調整役を担い、ご利用者同士が関わり合い、支え合えるような関係を築いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方の面会にうかがったり、ご家族からの近況報告などもあり、顔が見えるお付き合いを続けています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関りの中で心情が理解できるように努めています。意思疎通が困難な方には、動きや表情・ご家族からの情報を参考に、職員間で話し合いその人らしい生活が送れるように支援をしています。	利用者の思いを聞きだせるように努めており、難しい場合は仕草や動きなどから判断し、また家族からの情報も含め定期的に聞き取り、本人本位の介護になるよう努めている。	利用者本人が自分の最後の時間をどこで過ごしたいのか等に関して、具体的な思いを定期的に聞き取り・記録し、本人本位の介護となるように期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族・知人・関係者などから積極的にアセスメントをおこない、生活歴の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの能力に合った生活場面を設定し、張り合いのある生活を送っていただけるように支援をしています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族の意向をうかがい、ご本人の何気ない一言や職員の気付き・生活の様子を参考にしながら現状を把握し、介護計画を作成しています。4か月ごとに見直しをかけ、変化時に即した計画を作成しています。	担当が日々の様子を報告し、家族の希望も聞き取り介護計画を作成している。また目標達成の進捗度が把握できるように別様式を用意し、またコメントも記入して日々把握に努めている。病変等で状況に変化が出た場合は、すぐに変更し現状に即した計画になるように努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の様子や体調確認など個別に記録し、日々変化の把握に努めています。ご本人の一言や職員の気付きなども明記し、ケアや介護計画作成時に役立てています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別対応に重点を置き、その時々状況に応じて対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	フォーマル・インフォーマルを問わず交流を図るよう努めています。近所の公園などを活用し、豊かな暮らしを楽しめることが出来るように支援をおこなっています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的にご家族対応の受診となり、添書などで支援をおこなっています。ご家族の都合がつかない時は職員が対応し、結果を報告して情報の共有を図っています。訪問医を利用されている方もいます。	月1回の訪問診療、週1回の訪問看護で、安心出来る医療体制を維持している。かかりつけ医、専門外来は原則家族対応であるが、都合に合わせて、職員同行での支援も行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度訪問看護の体制を整えており、日常生活の中での気づきや状態の変化時のアドバイスを受ける事ができます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護添書にて医療機関との情報共有を図っています。病院側とご家族との連携を取り、退院後の支援に結びつけています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいます。	入所時には重度化に向けた支援について説明し、緊急時の対応についての同意を得ています。見取りの経験はありませんが、少しでも長く尊厳のある生活が送れるように支援をしています。	入居の契約時に重度化になった際の指針を説明し、書面にて確認を行っている。重度となり終末期となった場合、医師や家族、スタッフで再度話し合い希望に沿うよう支援しているが、医療的課題もあり、介護が出来る範囲ぎりぎりまでの対応となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に普通救命講習を全職員が受けようとしています。急変時のマニュアルを参考に急変時や事故発生に備えています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間及び地震と火災が重なる複合的災害訓練を消防署の指導の下に、運営推進会議に合わせおこなっています。避難時の福祉施設や地域のグループホームとの災害協定などもおこない、発電機なども完備しています。	年2回、火災を想定した避難訓練を栗沢消防署の指導により近隣の住民の協力も得ながら実施している。食料の備蓄もあり、また停電時に対し自家発電も取りそろえ、不意の災害に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	目線や声のトーン・焦らない声掛けを心がけ、一人ひとりに合わせた対応をおこないながら、その人らしい尊厳のある生活が送れるように支援をしています。	理念に基づき、その人らしい生活を支援するように、人格やプライバシーに注意し、介護優先にならないように取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話の中で選択する機会を増やし、自己決定ができる環境づくりに取り組んでいます。ご本人の生活歴を重視し対応しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員間でコミュニケーションをとり、業務優先にならず、一人ひとりの体調に合わせて、その日その時のご本人の気持ちを大切に、個別性のある支援を心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	スキンシップを図りながら、整容の支援をおこなっています。ご本人の意向に副って着替えていただいたり、アドバイスをおこなっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の準備や会話を盛り込みながら、四季を感じていただけるように対応しています。ご利用者の希望を献立に取り入れたり、月に1度は外食や出前を取り食事を楽しんでいただいています。	その日の利用者の希望や近所や家族から野菜等の差し入れで献立の変更となる場合が多く、利用者の楽しみのため、臨機応変に対応している。また、職員も同席で同じ食事を摂って、食卓が明るくなるように努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる事は健康のバロメーターと考え、食事量・水分量を記録し確保できているか把握しています。体調や状況に合わせて形状や助持具なども検討し提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔衛生体制加算を取得し、口腔ケアの重要性を職員が理解し、個々に合わせた支援をおこなっています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況を把握し、時間帯やご本人の様子を見ながら、尊厳やプライドを傷つけないように配慮しています。肌衛生を基本とし職員で話し合い対応しています。	気持ちの良い排泄を目指し、オムツでもトイレで介助するように取り組み、排泄のサインを見落とさないように注意し、自立した排泄に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックをおこない、腸の蠕動運動を促すために、起床時などに水分摂取の声掛けや毎日適度な運動を取り入れ、便秘予防に努めています。医師に相談し、排便薬で調整されている方もいます。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴日を設定していますが、希望や状況に応じて対応しています。個々のペースに合わせて入浴していただき、職員との会話を楽しみながら、身体確認の出来る大切な場面だと考えています。	入浴は週に2回、入浴日を設定している。その日以外でも必要な場合はシャワー浴等に対応し、また拒否者には無理強いすることなく、時間や介護者に変化をつけて、楽しいお風呂になるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動時間を促し、生活のリズムに合わせて対応しています。夜間安眠できないご利用者に対しては、話を聞き安心感を持ってもらい、無理強いせずに様子を見守っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬説明書をファイルに綴り、その都度目的や副作用を確認できるようにしています。薬の変更があった場合は、体調の変化などに留意し、スタッフ間で情報の共有に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの出来ることに着目し、日々の生活の中で役割を持っていくことにより、達成感や生きがいを感じていただけるように支援をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候に合わせて外出する機会を多く取り入れ、外出することが当たり前前の生活を送っていただいています。地域の行事やイベントなどへ参加し、出掛ける事で季節を感じていただいています。	天候に注意し利用者の希望を優先しており、計画的な外出行事から突発的なお出かけ、買い物や外食、散歩等を精力的に行ない、またお盆の墓参りも支援し、閉じ込めない閉じこもらない介護に徹している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持しているご利用者には、買い物時の支援をおこなっています。現金を所持していない方にも立替購入などの対応をおこない、買い物の楽しさや満足感を得られるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話を設置し、いつでも電話を掛けられるようにしています。ご本人が話をしやすいように職員が席を外すなどの配慮もおこなっています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間の整理整頓を心がけ、居心地良く過ごしていただけるように努めています。居室前には、利用者が作成した作品を展示し、季節感や達成感などを感じていただいています。	共用空間は清掃が行き届き、カレンダーや神棚、生花も多く飾られ、家庭的な雰囲気となるように工夫している。温度や湿度も適性に保たれ、みんなで楽しんだり、みんなで寛いだりできるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	好きな場所で過ごしていただいています。雑音が心地良く居間のソファで横になって過ごす方もおり、居心地よく過ごしていただいています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはなじみの物を使用いただき、安心感を持ってもらっています。ご本人の様子や状況をご家族様と見極めながら、危険物などの判断をしながら対応しています。	ベッドと暖房、収納が備え付けられており、その他の家具や思い出の品々を持ち込み安心して過ごせるようにしている。仏壇なども持ち込まれ、習慣などを大切にできるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーになっており、手すりなども設置しています。個々の状態に応じ適宜検討し、安全に生活が送れるように工夫しています。		